

機関番号：32511

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20530699

研究課題名（和文）墨塗り教科書の研究—米国議会図書館所蔵墨塗り教科書の分析を通して—

研究課題名（英文）Analysis of Japanese Pre-War Textbooks in the U. S Library of Congress-Relation to the Blacken-out Textbooks

研究代表者

田甫 桂三 (TAMPO KEIZO)

帝京平成大学・現代ライフ学部・教授

研究者番号：80100973

研究成果の概要（和文）：

米国議会図書館に、国民学校期に使用された教科書が所蔵されている。それらの教科書には書き込みのある付箋等が貼られ、また Military Affairs、○×等の書き込みがある。これらの書き込みから太平洋戦争後、学校で使用された墨塗り教科書原本であった可能性がある。

太平洋戦争後、敗戦国日本は国民学校期の教科書を軍国主義的、国粹主義的等の理由で使用できなくなった。学校では新しい教科書が出来るまで、これまで使用した教科書に墨を塗り使用したが、それらの教科書は回収されたため日本には殆ど現存しない。墨を塗る個所を決め、指示したのはだれか、それはどのような理由によるかを解明するために、議会図書館所蔵の教科書の修正部分とその理由を複写し、議会図書館所蔵の教科書リストを作成し分析した。

研究成果の概要（英文）：

The U.S. Library of Congress is the repository Japanese textbooks. Most of them were textbooks used from 1941 to 1945. There include:1)textbooks blackened lines out or slash marks drawn directly over and 2)textbooks with many notes by written-in English `militarism on the tags or slips were inserted or pasted. These blacken-out textbooks no longer existed to be revised when the new version were published

The purpose of this research is to clarify, 1)what parts of textbooks were blackened out?, 2)why were those parts not taught?, 3)who decided on what was to blacken out?.

For clear the these problems ,This research make a list of the textbooks.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：教科書、墨塗り教科書、戦後教育、民主化、国家主義

1. 研究開始当初の背景

米国議会図書館に未整理の日本教科書が多数存在すると、同図書館日本課のY. T. 太田氏から20数年前に教えられた。この資

料の存在は数年後に毎日新聞にも掲載された。しかし、未整理であったためか、2005年になり、その教科書はほとんど調査されることなく経過していることを太田氏から

教えられた。

そのため、2006年8月にその資料の全体の調査を行い、それが戦後日本で使用した墨塗り教科書の原本である可能性が考えられた。2007年夏にも再度調査し、主要な教科の付箋を貼られた箇所などをコピーし保存した。その調査過程で国民学校期の教科書はほとんど日本には存在せず、当館所蔵教科書の劣化が激しいため、至急調査をする必要を感じた。またその書き込みなど教育史的視点から、重要な資料となると考え科学研究費を請求した。

2. 研究の目的

従って、この研究の目的は米国議会図書館が所有する国民学校期を中心とした日本の教科書の全体像を明らかにし、それらが戦後使用された「墨塗り教科書」の原本であるかを明らかにすることであった。

幸いにも、米国議会図書館アジア部の全面的協力をえられたため、資料の劣化等も考え、2008年度以降の3年間は教科書の全体像を明らかに、主要な箇所を保存することを中心に研究を進めた。

主たる目的は、① 全教科書リストの作成、②教科書に斜線が引かれ、そのページに付箋が貼られそこに書き込まれた付箋理由を調査、記録することであった。付箋の劣化が激しいため、書き込まれた文字の判読しにくいものも多数あったため、付箋箇所についてはそのすべてを、コピーあるいは写真として記録することにした。

3. 研究の方法

議会図書館所蔵の当教科書は未整理であり、館外貸し出しをしないためアメリカのワシントンの議会図書館に行き調査をすることが中心となった。それゆえ、図書館に行き1600冊近いすべての教科書を借り出し調査を行った。最初は付箋の入った教科書を中心に調査をする予定であったが、調査過程で付箋の無い教科書のなかにも書き込みがあり、また日本で使用された教科書以外にも満州総督府、朝鮮総督府、台湾総督府、南洋庁で発行された教科書や、布哇教育会、加州教育会で発行された日本語の教科書があることが判明した。これらの教科書は日本での所蔵が明らかでないと思われるものも多い。そのため、議会図書館担当者と相談し、すべての教科書目録を作成することにした。

教科書目録の作成は、書き込み、署名、所蔵印、新本などの諸項目に注意して実施した。また原則として付箋の入った箇所と、その理由についての書き込みの撮影（コピー）を行うこととした。しかし、かなりの時間が経過していることと、保存が完全でなかったため付箋が破損していたり、書き込みが鮮明でな

いため判読が出来ないものもあった。この点に関しては、2010年度から図書館では全教科書をケースに入れて保存したため閲覧もしやすくなり、かつ破損も防げられる。

国内においても、墨塗り教科書の存在を調査したが、ほとんど所蔵している関係機関は無かった。ただ、磐田市の旧見付学校資料館に数冊の墨塗り教科書が所蔵されていることがわかりこれらのすべてを撮影（コピー）した。また、墨塗り教科書の研究論文を調査した。

なお、研究助成期間はワシントンにおける資料収集を行ったため、今後さらに詳しい国内の調査を行う予定である。

4. 研究成果

米国議会図書館所蔵の日本教科書がどのようなものでありか、特に付箋のつけられたページは誰がどのような目的で行ったかについて調査することであった。

1) 教科書について

議会図書館所蔵の日本教科書は英語の教科書を除いてすべてその題名の英語訳が付記されている。図書館が整理上付記したかどうかは現アジア部日本課図書館員在任中に行われたことはなく、日本課OB図書館員を探し数名の人に事情を尋ねたが記憶には無かった。また、これらの日本教科書が議会図書館に所蔵された経緯を尋ねたが明快な回答は得られなかった。それゆえ教科書は1950年ごろには議会図書館に所蔵されていたと考えられる。この未整理の日本教科書以外に戦後の教科書も977タイトル、7,064冊が議会図書館に所蔵されており、戦後の教科書とは明らかに別扱いではある。調査した教科書は戦前の教科書としては同一に扱われている。付箋の入らない教科書には加州教育会が桑港で1928年に発行した「日本語読本」47冊や、沖縄で押収された使用済みの教科書や、新本の教科書も含まれており、明らかにいろいろなルートで所蔵されたと思われる。

2) 日本での所蔵場所について

教科書表紙等に押された所蔵印等の主な箇所をあげると、文部省、国民教育局長、図書局長、青少年教育課長、編修課長、発行課長、図書監修官、東亜経済調査局、陸軍士官学校、普通学務局長、教科書課、図書局（見本）、文部省図書局公民監修官室用、陸軍経理学校、海軍兵学校図書館、検査課長事務官・検査官、多摩国民学校等多岐にわたり、中には明らかに文部省が所有していたと思われるものがある。また文部省図書局は昭和18年1月まで存在しており、それ以前教科書も所蔵されている。

また個人所有のサインも多岐にわたり、個

人名を除き学校名や住所がわかるものを記述すると、香取郡豊浦村（豊浦尋常高等小学校）、開南中学校、上海市国民学校、上海日本商業学校、京都第一中学校、東京府立第八中学校、天王寺中学校、成城高校尋常科、誠立小学校、沖縄県勝連村（與勝、津堅、濱の3校）、ヤップ島クーロール村（ニフ或はクーロール公学校）等当時の植民地を含め広範囲にわたっている。

3) 教科書の種類について

教科書の種類も全科目にわたっており、学校種別についても国民学校尋常科・高等科をはじめ、中学校、高等女学校、実業学校、青年学校等あらゆる種類にわたっている。

また教科書以外に少数の夏休みの学習練習帳や自修所、童話、礼法、愛国学校劇、銃後美談劇等が含まれている。

注目されることは国民学校尋常科、高等科の教師用指導書がかなり所蔵されていることである。

4) 内容について

付箋の貼られた（書き込みを含む）教科書は、国史、地理、読本だけではなく算数、音楽、習字、裁縫、工作などすべての教科書に及んでいる。たとえば、習字では「靖国神社」という文字には×印が付けられて消されており、工作では「飛行機」や「戦車」の絵や「満州国国旗」（拙稿「米国議会図書館所蔵の日本教科書」の写真参照）にも×印が付けられている。

5) 付箋内容について

付箋には英語で書き込みがある教科書ものがあり、その書き込みの内容は、『コトバノオケイコ 一』（昭和16年4月発行）では「Military Materials」が3箇所、「Militant」が5箇所ある。その他、ほとんどのページに○印や×印および○×印が付けられている。注目すべきことはこの○×印は教科書にも書き込まれている箇所もあることと、付箋が張られた跡があることである。この付箋跡は何を意味しているのかは不明であるが2つの推察が考えられる。①つは、この教科書に○×印を付けた者が意図的に取り外したか、②保存過程で破損したかである。破損であれば、『コトバノオケイコ 一』は Washington Document Center から、議会図書館 Japanese Section Asian Division 移管されておりその過程と考えられる。付箋を貼られてから60年以上経過しており現に破損に近いものや破損したと思われる箇所もあるが、その痕跡から見て意図的に取り外されたもののように思われる。

『コトバノオケイコ』は、上記の教科書一以外に二、三、四の3冊ある。それらにも付箋・書き込みがあるが『コトバノオケイコ 四』の付箋の書き込みは、「Nationalistic」、「Military Affairs」、「Manchuhuo」、

「Militant」、「War time materials」の数箇所である。書き込みの文字は同一人物の筆跡と見られる。しかし、2名以上の者が見て○×印を付けたと思われる。

尋常小学校1年生が使用する『コトバノオケイコ』はその性質上、思想的にはさほど問題のない教科書であるといえる。かなり内容的に問題があったと想定できる修身について記述する。

6) 修身の内容について

『高等科修身 一（男子用）』（昭和19年5月15日発行）は目次の前に掲載されている「軍人勅諭」等の勅語等は、当然赤と黒の斜線が引かれている。この別の色で引かれた斜線は2人の人物によって書き込まれたと思われるが、2人の判断が異なっていると思われる。教科書には15の話が掲載されているが、そのうち赤線では（四）朋友の交、（五）勤労の心、（九）孝行、（十）至誠、（十一）祝日・大祭日以外は削除しているが、黒線では、赤線の削除部分の（一）稚心を去る、（七）反省と努力、（八）食糧の増産、（十二）科学と国民生活、4箇所にも◎を付けいったん削除された箇所を咲く所から除外したと思われる。どうしてこのような違いが起こっているのかについて内容を検討した。

（一）の「稚心を去る」は橋本左内の話であるが、この記述の中には「君がため何か惜しまん若桜散って甲斐ある命なりせば」とは、真珠湾特別攻撃隊員の一人として壮烈な最期を遂げた」（4頁）とか「皇国日本が大東亜建設の大業に向かって進んでいる時私も、今こそ奮然として起ちあがらなければならない」（6頁）という記述がある。この部分には削除という記述があるが、このような記述がありながら、一度削除された箇所が何故復活させようとしたか疑問である。この「稚心」のページにも付箋が貼られその付箋に書き込みがあるが、それらは「Train the attitude of students to the war」, 「Military」, 「Military spirit」とされ、敗戦の反省という視点から見れば◎をつけた理由は不可思議である。

7) 国内の調査について

日本国内における墨塗り教科書の調査も実施した。

「墨塗り教科書」そのものについては、個人所有（名古屋市在住）や大学図書館（愛知教育大学）博物館（旧見付学校）等には多少存在するが、ほとんど国内には存在していない。

研究書・論文についても、『戦後初期国語教科書史研究』で国語についてはかなり詳細な分析がなされている。「占領下におけるわが国教育改革の研究」や、「墨塗り教科書展を終えて」「復刻 墨塗り教科書」（25冊の復刻）等参考なるものはあるが、以外ほとん

ど行われていない。

墨塗り教科書については回顧録がかなり書かれているが、注目される回顧録（研究）としては「占領教育史研究」に掲載された、元GHQ教科書担当官ワンダーリックの戦後の教科書政策にたいする回顧録がある。

戦後の教育改革の原点であった墨塗り教科書の研究書・論文が数少ないことの原因は資料となる墨塗り原本の不足が第一の原因だと思われる。黒塗り原本がほとんど現存しない理由は、文部省が連合軍総司令部の支持で回収したためである。昭和21年2月に第1回、8月に第2回目の回収がおこなわれた。第1回目に回収された教科書は修身、地理、歴史、公民であったが回収冊数は2467万冊を回収（昭和22年8月衆院文教委員会）されている。

国会における教科書に関する議論は終戦後かなり行われているが、国民学校期における議論は請願以外にはおこなわれていない。また戦後「官報」に掲載され教科書に関する記事は、教科書局の設置・人事異動に関することと、教科書の定価が中心であり、墨塗り教科書に対しての記録は無い。

また、戦後墨を塗られ使用を禁止された国民学校期の教科書をどのように教えたのか、そのどこが主要な問題なのかを知ることが、墨塗り教科書の問題をより深く分析できると考え、国民学校期の教授実態（授業実践）についても資料調査した。しかし、教師用指導書はもちろんであるが、教科書が戦後墨を塗られ、国民学校期の教育の問題が国会等で文部大臣から指摘されたようなことがあったためかそれらの実態を示す資料はほとんど存在しない。わずかに住吉大社御文庫等に、国民学校期児童が使用した学習参考書（虎の巻）、戦争を賛美する児童書等が散見するだけである。国民学校期の教育実態の研究は地方資料を詳細に調べることの必要性を感じた。

以上研究開始後、問題の重要性に対してあまりにも研究が少ないため、当初の研究目的より広範に資料を収集した。今後、米国議会図書館で収集した教科書資料を詳細に分析し墨塗り教科書の問題、すなわち太平洋戦争期の教育問題の解明を進めて行きたい。

なお、作成した「米国議会図書館教科書目録」および撮影・コピーした「付箋が入った教科書」については公開している。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

① 田甫桂三、米国議会図書館所蔵の日本教

科書―「墨塗り教科書」との関連―、帝京平成大学紀要、査読有、第22巻、第1号、2011、pp45－69

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田甫 桂三 (TAMPO KEIZOU)

帝京平成大学・現代ライフ学部・教授

研究者番号：80100973

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし